



ミャンマーの 2021 年 2 月 1 日の軍事クーデターから 10 ヶ月が経とうとしています。欧米を中心とする国際的な批判にもかかわらず、軍事政権は民主化を求める市民への武力弾圧を続け、これまでに 1,236 人が殺害され、アウンサンスーチー国家顧問を初めとして 9,667 人の人びとが捕らわれています(2021 年 11 月 3 日時点)。

このような中で、ミャンマーの軍事暴力を止めさせ、民主化運動を支援する日本の市民運動が求められています。また、日本政府は欧米のような軍政に対する経済制裁は行わず、「独自のパイプ」として国軍との協調路線を取っています。この背景には日本の ODA (政府開発援助) をテコにしたミャンマーの経済権益があります。

こうした中、この度、ティンウィンさん(下記参照)を講師とする ZOOM を使ったオンライン連続講座を開催します。参加費は無料ですが、コアネットに入会(1,000 円/年)していただくとメール、会報(4 回/年)などで関連資料を送らせていただきます。下記連絡先にメールをお願いします。ZOOM 参加の URL を送ります。

- 第 1 回 12 月 16 日(木) 20 時~21 時 30 分 テーマ「ミャンマーの現下の情勢」
- 第 2 回 1 月 20 日(木) 20 時~21 時 30 分 テーマ「日本のミャンマー ODA」
- 第 3 回 2 月 17 日(木) 20 時~21 時 30 分 テーマ「日本の市民運動の課題」



Tin Win (ティンウィン) さんの略歴

1954 年 11 月 28 日マンダレー(第二の都市、2014 年の都市圏人口は 214 万人)生まれ(2021 年 10 月現在 66 歳)。上座部仏教徒が多数を占めるミャンマービルマ社会の少数派であるイスラーム教徒。

1974 年に Institute of Economics, Rangoon(現在のヤンゴン経済大学)に入学し民主化運動に参加。「厳しい弾圧の中、(中略)88 年には逮捕され、2 カ月弱拘束された。」「釈放されてから、アウンサンスーチー氏が立ち上げた国民民主連盟(NLD)のメンバーになり、幹部も務めた。」(BuzzFeedNews/2021 年 2 月 28 日 富田すみれ子)

しかし、弾圧が激しくなり、やむなく家族(妻子)とともに日本に亡命。難民として永住資格をとり、以降 27 年間、栃木県小山市に住んで慣れない肉体労働などをしながら家族を養った。子供は 3 人とも大学を卒業。

2011 年に長期にわたった国軍による独裁体制から民政移管が行われ、2015 年の選挙では NLD が選挙で勝利。家族、親族、日本社会の友人たちと相談した後、新しい政治状況の本国で活動できるとの判断に至り、同年、故郷のマンダレーに戻った。家業の服の店を継ぎ、高齢の母親の面倒を見ながら、民主化運動を行う若者のサポートをしてきていた。

本年 2 月 1 日クーデターが引き起こされ、店を閉めて抗議行動を行っていた。しかし、自分自身が逮捕拘束される危険が迫ったため、今年 6 月に家族とともに再来日した。永住資格があることから、帰国後は横浜の家族のもとに一時滞在し、7 月からは大阪市内の家族宅に移って生活している。将来は、再び「民主化」が実現された本国に帰国することを強く望んでいる。

- 主催:コアネット(戦略 ODA と原発輸出に反対する市民アクション)
- 連絡先:三ツ林(☎:090-8382-9487, E-mail:y-mitsuba@jcom.zaq.ne.jp)